



文政8（1825）年製作で、後野にある愛宕神社の氏神祭りです。巡行した芸屋台に懸装した見送幕を大きく配し、その下方の左右に内側に向き合う横向きの龍2頭と瑞雲、そして幕の下方に崑崙山を中央に挟んで、青海波を左右に描いた雲龍図綴錦です。

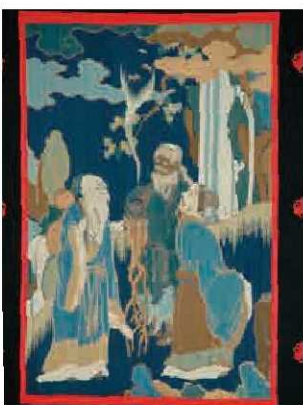


**指定1**  
雲龍図綴錦  
（後野区宮本町芸屋台「愛宕山」見送幕）

令和5年12月1日、新規に3件を与謝野町指定文化財に指定したので紹介します。これらは江戸時代から明治・大正・昭和期の絹織物産業の繁栄を象徴するものです。  
☎ 社会教育課 43・9026

本幕のように額絵を見ないのは中国製をならった日本製の綴織物に多く、本幕は、江戸後期の文化爛熟期である文政年間（1818～1830年）に我が国で製作された綴織りの幕と想定されます。

**指定2**  
三仙人図綴錦  
（金屋区芸屋台見送幕）



金屋の氏神祭りです。巡行した芸屋台に懸装した見送幕です。「瀑布

を背景に談笑する三仙人の図」を綴織りで表しています。また、本幕は、昭和23（1948）年に後野区上之町の「蛭子山」から芸屋台とともに4万5000円で金屋区に譲渡されたものです。  
本幕の綴織りは、図柄の横方向に経糸を配し、縦方向に緯糸を織り入れて図を織り表す西洋のゴブラン織りと呼ばれる毛綴織りに見られる織技法で、寛政年間（寛政2（1790）年）に特異といえる西洋の綴織技法ゴブラン織りをならった綴織製作がすでに行われていたことを示しています。

**指定3**  
黄地蜀江襷に  
丸唐花文様  
繻珍錦  
（三河内区奥地町内会山屋台「倭文山」水幕）

三河内にある倭文神社の氏神祭りです。本幕の来歴は、峰山藩城下



町の織元町が江戸時代に製作した山屋台「高砂山」を、奥地町内会が明治5（1872・※）年に幕類一式とともに購入したものです。

本作の図柄には蜀江襷文様に円寿字、卍字錦、盤長といった特徴ある中国様式の図柄と構成、そして色調が見られます。清朝17世紀後半から18世紀中ごろまでの、特に精緻な織りが発達した時期に製作された宮廷用調度織物と推測され、日本への渡来は、江戸時代中末期から後期にかけてと想定されます。

※ 明治11（1878）年の説もあります

## 華麗なる平安絵巻の世界へ

今年大河ドラマは、源氏物語を描いた紫式部を主人公にした「光る君へ」。年明けに紹介するのにふさわしい華やかな時代を本をとおして知ってみませんか。

『与謝野晶子の新訳源氏物語 ひかる源氏編』  
紫式部、与謝野晶子/角川書店



古典の中の古典とも評される「源氏物語」。名だたる作家が口語訳を手がけていますが、その中でも、与謝野町ゆかりの文人与謝野晶子が手がけた作品は、全訳ではないからこそ、晶子の視点でのストーリーや登場人物の魅力がぎゅっと詰まった1冊になっています。

『姫君たちの京都案内「源氏物語」と恋の舞台』  
蔵田敏明、薄雲鈴代/淡交社



源氏物語の舞台は、今から1000年以上前の京都。光源氏と恋愛にほんろうされた8人の姫君とともに、物語を振り返りながら現代の京都を巡る「聖地巡礼」にぴったりの1冊。当時の風習に関するコラムなどもあり、読み物としても楽しめます。

『古典がおいしい！ 平安時代のスイーツ』  
前川佳代、穴戸香美/かもがわ出版



いつの時代も女子が大好きなスイーツ。平安時代の人たちが食べていたスイーツを再現できるのがこの本。枕草子のけずり氷や源氏物語のつばきもちなどのレシピを紹介。貴族たちが食べていた当時に思いをはせつつ、スイーツを味わってみませんか。

『鉢かづき（日本の物語絵本）』  
あまんきみこ、狩野富貴子/ポプラ社



観音様のお告げに従った母から大きな鉢をかぶせられた娘は、母の亡きあと家から追い出されてしまいます。その後身を寄せた中将家の貴公子と恋に落ち、結婚を反対された2人が家を出ようとした途端に起きた奇跡とは。日本版シンデレラといわれる話が、繊細で美しい絵で描かれた1冊。

## 紙芝居動画「エイエンノハイワ」をぜひご覧ください

「マザーグースの会」さんから紙芝居動画のDVDをご寄贈いただきました！



第2次世界大戦中、大江山ニッケル鉱山で強制労働を強いられた故フランク・エバンスさんの体験を子どもたちに伝えたいという思いから、読み聞かせボランティアグループ「マザーグースの会」さんが、2011年に「エイエンノハイワ～エバンスさんの捕虜収容所日記より～」を作成し、各所で披露されてきました。

この度、さらに多くの方に見てほしいという願いから、解説を含めた紙芝居動画（英語の字幕付き）のDVDを作成され、図書館全館にご寄贈いただきました。図書と同じように貸し出しますので、ぜひご利用ください。

- 問い合わせ先/与謝野町立図書館 ☎ 46-2451 加悦分室 ☎ 43-0376 野田川分室 ☎ 43-0087
- 開館時間/午前10時～午後6時 ● 休館日/毎週月曜（本館・加悦分室）、毎週火曜（野田川分室）、毎月最終木曜（共通）